ド初期モデル［98年式］過走行ポルシェ996

ポルシェ996 リフレッシュ Refresh 計画 2

テスタロッサ・リフレッシュ計画の後を引き継ぐカタチで始まった「ポルシェ996リフレッシュ計画」の第2回目。
テーマは消耗品の交換で初期モデル過走行車に新車の味が戻ってくるか、です。
サンプル車は98年式という超ド初期モデルの走行たぶん10万㎞オーバー車。
果たしてこのポルシェ996、新車の味までハウマッチ？

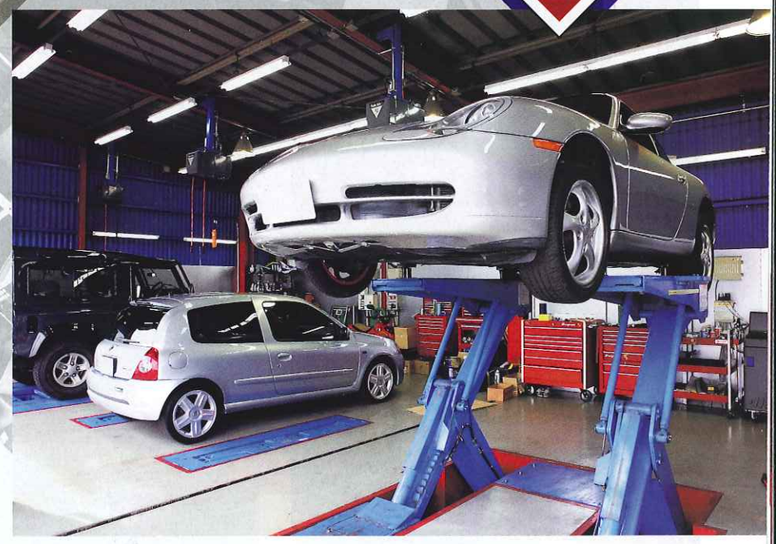
文●半谷純一　撮影●森口信之
取材協力●㈱スピードジャパン TEL:03-3555-8865 http://www.speedjapan.co.jp
㈱ニューズモーター TEL:043-208-7900 http://www.news-motor.com/

メーター改ざん車「危ない個体」当初の予想に反して意外にも…

担当メカニック紹介

ニューズモーター：石野忠良工場長

メカニカルな部分のリフレッシュに関しては、ニューズモーターの石野忠良工場長に作業をお願いすることにした。現在、ニューズモーターの主力となっている車種はレンジローバーやイタフラ系のクルマたちなので、ポルシェはちょっと場違いな印象かもしれないが、実は石野メカは以前ポルシェのディーラーであった三和自動車出身のメカニック。空冷も水冷も、豊富な経験を積んでいるのだ。



前回はディーラーのサービス工場でPIWISと呼ばれるポルシェ専用のダイアグノーシスシステムに接続し、問題点のチェックを行なった。そこで今回からは、いよいよそれらのリフレッシュに入ることにしよう。今後、機械部分の作業に関しては、千葉県千葉市にある輸入車専門店、ニューズモーターさんにご協力いただくことにした。

前回の点検で分かったことは、この取材車が我々の予想よりはるかに健全な状態に保たれていたということだった。メーター改ざん車という事実を考慮すると、実際にはかなりの距離を走っている（確証はないが、最近では6～7万㎞程度の走行距離では巻き戻さないでそのまま売ってしまうことが多いので、恐らく10万㎞以上だろう）と思われるが、色々な場所に、比較的最近までちゃんとメンテナンスしていたような形跡が残っていたのだ。

メカニカルな部分に関して前回の点検で指摘されたのは、タイヤ（これも1本を除いてN品番の純正タイヤだった）がすでに終わっているという点と、エンジンの左バンク下側にあるセパレーターからほんのわずかにオイルのにじみが発見されたという点だった。実際にはオイルのにじみに関しては早急に修理が必要という状況ではなかったが、それではネタにならないので、まず最初にその修理を実施することにした。また、前回の点検で過去にO2センサーが異常を感知したという記録が出ていたので、念のためマスエアフローも交換することにした。

マスエアフロー（エアマスメーター、エアフローセンサーなど色々な呼び方をするが、ここではボルシェのパーツリストの表記に従いマスエアフローの表記を使用する）の交換に関しては、ボディごとではなく、センサー部分のみの交換が可能なタイプ。スピードジャパンの小澤社長によると、交換前との違いはまったく体感できなかったということなので、恐らく最初から何も問題なかったのだろう。

もう一点のオイルのにじみ修理に関しては、セパレーターのベローズのみではなく、その周辺に使用されていた2個のシールリングも合わせて交換することにした。この作業をするために下側からのぞいて見たところ、ベローズを固定するクランプの片側、およびブローバイホースに使用されているクランプがポルシェの純正パーツではなく、市販の一般的なクランプに変更されているのを発見した。

上側のクランプは、どう考えても下側から手を伸ばして交換できる位置にはないし、上側からアクセスすることもできない。つまり、この取材車は過去に少なくとも一度はエンジンを降ろして作業したことがあるわけだ。

恐らく過去にクラッチ交換か何かを行なったときに、ついでに整備を行なったのではないだろうか。いずれにしても、普段は人の目に触れない部分なので、それなりにちゃんとメンテナンスをしてきたという証拠ともいえる。

なんだかこのクルマ、当初の予想に反して(?)それほどお金を掛けなくても、満足の行く状態にまで仕上げることができそうな気がしてきたぞ。

メンテをお願いしているSHOP info

NEWS MOTOR
輸入車でお困りの方はニューズモーターへ!!
「クルマに関する事は何でも解決致します！」というプロ集団のニューズモーター。気さくなスタッフばかりなので、お気軽に相談してみて下さい。

商号：株式会社ニューズモーター
所在地：千葉市中央区星久喜町189-1
電話番号：043-208-7900
HP：http://www.news-motor.com/
E-MAIL：info@news-motor.com
FAX番号：043-208-7901
営業時間：9:00～19:00
定休日：毎月第2月曜日定休日（月曜祭日の場合は翌火曜日定休）

ベローズと呼ばれるパーツからのオイルにじみ修理

手が届かなーい。かなり面倒な作業ですね

上の写真は新品パーツと交換したパーツを比較したもの。それぞれ左側が新品パーツになる。前回オイルのにじみが発見されたのは左側のベローズと呼ばれるパーツで、ヘッド左側に配置されたセパレーターに取り付けられている。前回は気付かなかったが、すでに下側のクランプは汎用のクランプに交換されていたので、過去に一度は修理されていたことになる。今回は新品に交換し、上下とも汎用のクランプで固定し直した。右上の茶色のシールリングはセパレーターとヘッド部分をつなぐ部分に使用されているシールで、下側はブローバイホースとのつなぎ目に使用されているパーツ。茶色のシールはセパレーターをゆるめて交換しなければならなず、黒いシールは手が入りにくい場所にあるため、どちらもかなり面倒な作業だった。

スペースがなく手が入りにくい場所なので、作業は結構大変だった。シールリングは両方共まだ交換が必要な状態にはなっていなかった。裏側から見たら絶対に手が届かない位置のクランプが交換してあることを発見。

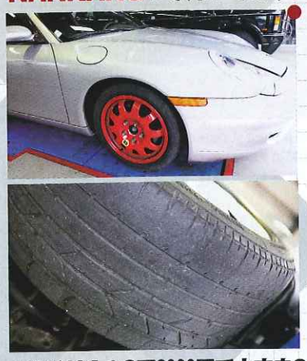
O2センサーの異常を感知 マスエアフローの交換

交換前と交換後、果たして…!?

これが今回交換したマスエアフローセンサー。外したパーツと比べてみたら、品番が同じだったので、特に改善は行なわれていないようだ。マスエア交換と聞いて、てっきり993までと同じようにボディごと交換するのだろうと思っていたら、この996になってからはセンサー部分のみで交換できるようになっていた。トルクス2本で止められているだけなので、交換は簡単。

次号は→タイヤ交換

NANKANGって知ってます？



4本送料込み3万2000円で大丈夫？

前回も書いた通り、すでにタイヤは前後共終わっている。そのまま走行するのは危険な状態で、今回も一本はスペアタイヤに付け替えて持ち込むことになった。そこで、次回はタイヤを新品に交換すると同時に、ショックテスターによるショックアブソーバーのヘタリ具合の点検をレポートする。タイヤは最近ちょっと気になる“あのタイヤ”をタイアップなしの自腹購入して試す予定。